

令和5年度農作物有害動植物発生予察情報 注意報第3号

令和5年8月17日
山形県病虫害防除所

- 1 病虫害名 果樹カメムシ類 (クサギカメムシ)
- 2 対象作物 りんご、もも、なし、かき等
- 3 対象地域 県下全域
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発表の根拠

ア. 予察灯におけるクサギカメムシの8月3半旬までの総誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）が114頭（平年：22.9頭）、農業総合研究センター（山形市）では68頭（平年：23.7頭）と多く、8月に入ってから誘殺数が急増している（写真1、図1）。
イ. 8月前半の巡回調査（8月7～9日）の結果、西洋なしの被害果が見られ、ぶどうや日本なしの葉上で卵塊やふ化幼虫が確認されている（表1、写真2、3）。
ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高いと予報されており、果樹カメムシ類の活動が活発となり果実への加害が増加すると予想される。

6 防除対策

ア. 気温や湿度の高い日に果樹カメムシ類の園内への飛来や吸汁加害が多くなる傾向がある。園内をこまめに見回り、樹上の寄生や被害果の発生に注意する。
イ. 園内で成幼虫の寄生や卵塊、被害果が確認される場合は、速やかに捕殺や薬剤散布を行う。また、加害は収穫期まで長期間にわたるので、園内の見回りを継続する。
ウ. 台風の通過後に、園内に多飛来する場合がありますので注意する。
エ. 薬剤の選定に当たっては、「山形県病虫害防除基準」を参照し、果樹カメムシ類に効果のある剤で防除を実施する。なお、薬剤抵抗性出現を防止するため、同一系統の薬剤の連用を避ける。



写真1 クサギカメムシ成虫



写真2 クサギカメムシ卵塊とふ化幼虫

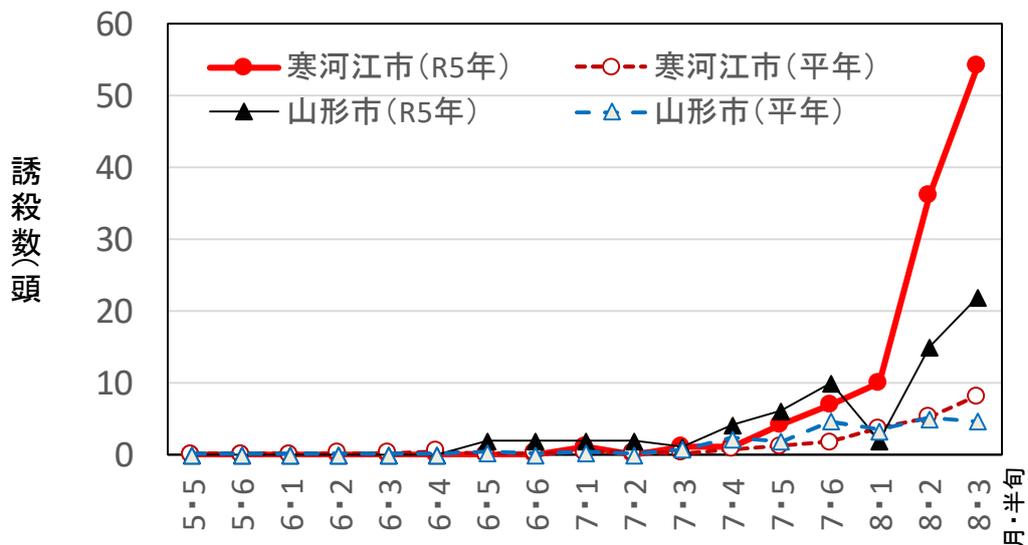


図1 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺推移

表1 西洋なしの巡回調査結果

年次	果樹カメムシ類による平均被害果率* (%)		
	7月前半	7月後半	8月前半
令和5年	0	0	0.3
令和4年	0	0	0.1
平年	0	0.3	0.3

*) 4園地を対象に各400果を調査、 平年：10か年平均



写真3 西洋なしの被害果

山形県農薬危害防止運動実施中 (実施期間 令和5年6月1日～8月31日)

農薬の使用に当たっては、**農薬使用基準(収穫前使用日数、使用回数など)**を遵守するとともに、周辺圃場の農作物や住宅地等へ飛散しないよう十分留意する。

また、広域的に防除を行う場合は、学校等公共施設、周辺住民、養蜂家等への防除計画の事前周知に努めるとともに、防除従事者は防除衣等の着用や体調管理に努める等、農薬使用による危害防止対策を徹底する。

山形県病害虫防除所	本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382

山形県病害虫防除所トップページ	https://agr.in.jp/theme/byogaichubojosho/index.html
農作物有害動植物発生予察情報	https://agr.in.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html